

風土記の丘の花だより²⁹⁷

今、そしてこれから見られる植物(2025年11月22日)

クマ騒動で、この花だよりが皆さんのお手元に届くかどうか不安です。HPではご覧いただけるのですが、私のように、そのような事が苦手な方にとっては、やはりこの紙を手にとって読む方が、落ち着くのではないのでしょうか。(時代遅れですね。)さて、寒くなり花を探すのが日に日に困難になってきました。それでまた今回もキノコを一つ紹介します。



ではさっそくキノコです。これはウスヒラタケです。よく耳にするヒラタケはもっと色が濃いですね。これは。色も薄いし、身も薄いし、それでウスヒラケです。伐採したクヌギやコナラなどドングリの木に群生します。なかなかおいしいキノコだそうで、キノコ好きの知人は好んで採っていますが、私は食べたことはありません。テレビ新聞等で「毒キノコの誤食で中毒!」というニュースを見聞きします。浅い知識だけで、野生のキノコを食べるのは避けましょう。



白くて可愛い花ですね。コシロノセンダングサです。意味は「小さくて白い梅檀草」です。センダングサの仲間は細長い「ひつつき虫」でお馴染みですが、一番よく見かけるコセンダングサにはこのような花びらがありません。この花は北アメリカからの外来植物ですが、それ故、名前がコロコロ変わりました。少し前の図鑑では、シロバナセンダングサ、シロノセンダングサなどの名前で載っているかもしれませんが。風土記の丘では、今、造成している工事現場で見ることが出来ますが、皆さんは立ち入る事ができません。ご自宅の周りの空き地などにも生えているかもしれませんよ。



ベニバナボロギクの花がうつむきがちに咲いています。ベニバナは花の色から、ボロギクは種子に付いている白い毛の様子から名付けられました。その毛が雨や露に濡れるとぼろ布みたいに見えるからです。アフリカあたりからの外来植物ですが、荒れ地や道ばたで普通に見かけます。私は上のウスヒラタケは食べませんが、これは食べたことがありますよ。まるでシュンギクのような味と香りです。でも、召し上がる際には、くれぐれも自己責任でお願いします。



大池の北の堤で真っ赤なノイバラの実を見ることが出来ます。春には真っ白な花を咲かせ、多くの虫を誘っていましたが、その虫たちのおかげで受粉でき、こんなきれいな実ができたのです。万葉の昔は「うまら」と呼ばれ、それが「うばら→いばら」になったのでしょう。こんな防人の歌があります。「道の辺の うまらの末に 這ほ豆の からまる君をはかれか行かむ」 意味はお調べください。 松下